



埼医FAXニュース

編集・発行

埼玉県医師会広報担当 松山 眞記子

https://www.saitama.med.or.jp/kaiin/kaiin_7.html

埼玉県医師会代議員会速報

令和5年6月15日（木）、埼玉県県民健康センター2階大ホールにおいて、第178回埼玉県医師会定例代議員会（出席代議員数152名）が開催された。高橋議長が会議の成立を宣し、議事録署名委員の指名に引き続き、金井会長が挨拶に立った。

金井会長挨拶

代議員の先生方には、第178回の定例代議員会に出席をいただきありがとうございます。

新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行しました。多くの人たちが開放感や安心感を持って外出であったり、観光であったりと活動が少し盛んになったのかなと感じられます。これはいいことではないかとは思っております。先生方には今までの間コロナ対策で大変ご苦勞をおかけいたしました。感謝申し上げます。しかしながら、まだまだ安心できる状況までは達していないと思います。定点把握になりましたが、1番直近で定点当たり6.51ということになっております。6.51というと、インフルエンザ流行の値から考えても結構高いという感覚をお持ちの先生方が多いかと思います。そのため、なかなか落ち着いた状況ではありません。また、尾身新型コロナウイルス感染症対策分科会会長が既に第9波に入ったというような話をしていたという話もお聞きしました。しかしながら、重症者や死者は増えているわけではありません。これはワクチン効果であったのか、ハイブリッド免疫によるのかなど色々な要素があつてのことかと思ひますけれども、確かに重症者、死者は減ったという感じがしております。その分だけでも安心材料になるのではないかと思います。

いずれにいたしましても、5月8日が一区切りになったと考えております。埼玉県にありました新型コロナ対策本部、それから入院調整本部が廃止となりました。また、埼玉県専門家会議を73回開催し、さらに埼玉県医師会では新型コロナウイルス感染症対策会議を開催しており、本日で112回の開催となりましたが、専門家会議につきましては、一昨日、いつまた感染拡大して召集されるかというのは分かりませんが、お役御免ということで一応の役割を終えた形となりました。

本日は松本日本医師会会長が当会代議員としておいでですけれども、来年は、医療、介護、福祉のトリプル改定、それから2024年から2029年までの6年間の地域医療計画も始まるということにもなります。働き方改革も始まり、また今いろいろと問題になっておりますがマイナ保険証も始まります。松本会長は大変な時期での就任でした。トリプ

ル改定、地域医療計画、働き方改革、地域医療調整、外来機能報告制度等々があり、今後ともご苦勞が多いことと思いますが頑張っていたきたいと思ひます。

骨太の方針が今新聞報道等でも出ておりますが、松本会長とお会いする機会が時々あり、先週お会いした時に、これから骨太の方針2023について調整をするというお話をされていまして。昨日にはあらかたの筋道がついたとの報道があります。業界紙では松本会長の意見が取り入れられたとあります。

本当に大変な状況で会長をお努めですが、我々も懸命に応援・支援をしていきたいと思ひます。

コロナのため関心が少し薄れていた超高齢社会の問題を考えなければなりません。高齢者の医療需要というのは大きく変わってくると思ひます。報道等でもご案内だと思いますけれども、既に外来の受診者数は減少をしており、これはコロナによる影響だけではなく明らかに減少をしているということが分かっているようです。入院の形につきましても、どうしても回復期であるとか慢性期というものになり、さらに在宅が多くなるというようなことで、医療需要もだいぶ変化をしてくるのかなと思ひております。これらについては、当県でも一生懸命研究をし、どういう方法がいいのかということを考えていきたいと思ひております。

本日は令和4年度の事業報告と公益目的支出計画の実施報告、令和4年度収支決算、そして令和6年度の会費等賦課徴収に関し審議をいただくこととなっております。慎重審議をお願い申し上げ挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

報告事項

令和4年度埼玉県医師会事業報告
公益目的支出計画実施報告

報告事項について各担当役員から説明があつた。

議 事

第1号議案 令和4年度埼玉県医師会収支決算に関し決議を求める件

第2号議案 令和6年度埼玉県医師会会費等賦課徴収に関し決議を求める件

第1～2号議案について、決議された。

その後、会長挨拶をもって閉会した。

（詳細は「埼玉県医師会誌」に掲載予定）

（2ページへと続く）

損害保険・生命保険のお問い合わせ・ご相談は
（有）埼玉メディカル

〒330-0062 さいたま市浦和区仲町3-5-1
TEL 048-823-9230 / FAX 048-823-9260

（1 ページからの続き）

＜新型コロナウイルス感染症対策会議について＞

会議結果をお知らせいたします。

第112回 令和5年6月15日（木）午後2時～

常任理事会構成メンバー

県行政（保健医療部 谷口医療政策幹他3名）

金井会長；本日も県の担当に出席いただいている。説明をお願いする。

谷口医療政策幹；感染動向について、定点当たりの報告数であるが、先週は6.51で、じわじわと増加している。入院の状況は、6月11日現在で入院者数は342人、うち重症者が7人となっている。入院者数は若干増えているが、重症者は横ばい状況である。

岸ワクチン対策幹；ワクチン関係では、春開始接種開始以降35日間で、全体では685,449件、埼玉県人口に対する接種率が9.3%となっている。高齢者は、623,751件と、高齢者人口の31.6%となっている。後3週間で381,163件の接種をしていただいている。1週間前が22万件程度だったので、1週間で15万件以上接種いただいている。高齢者については、348,827人で対象者の17.7%となっている。ワクチンバスについては、現在まで22施設に派遣している。春開始接種期間中は実施していく。

お知らせ

1. 日本女医会埼玉支部 学術講演会

日時：令和5年7月9日（日）11:00～12:00

場所：ロイヤルインズホテル浦和 4階 ロイヤルリンクス

演題：高齢者のみかた～Dr. SUPERMAN

国際医療福祉大学医学部 総合診療医学 教授

岩本 俊彦 先生

※問合せ先：日本女医会埼玉支部事務局（北本共済医院）

Tel 048-591-7111

最近のトピックス

■「命・健康が守れる診療報酬」を

日医・松本会長、日精協で呼びかけ■

日本精神科病院協会が6月9日に開いた定時社員総会で、来賓として出席した日本医師会の松本吉郎会長が挨拶に立った。2024年度トリプル改定に向け、「国民の命・健康が守れるような診療報酬」を目指すとし、協力を呼びかけた。

財務省の財政制度等審議会は5月下旬にまとめた建議で、トリプル改定について「巨額のコロナ補助金もあり、積み上がった資産の状況も含めて、医療機関・介護施設の財務状況を見ながら、引き上げの必要性について慎重に議論を行うべきだ」と提言した。

これを念頭に、松本会長は「コロナ補助金は、病院、診療所の医療関係者がしっかり対応した結果として頂いたものであって、診療報酬とは全く異なるものだ」と強調。「物価高騰、賃金アップに対し、公定価格で転嫁できないため、自民党にしっかり働きかけ、トリプル改定に向けてさらに頑張っていく」と述べた。

「財務省の厳しい対応が続いているが、何としてもわれわれの医療が壊れないように、国民の命、健康が守れるような診療報酬を望んでいる。力を合わせて頑張っていこう」と呼びかけた。 ※1

（記事は日医FAXニュース ※1：R5.6.13 ※2：R5.6.9 ※4：R5.6.20
でイファクス ※3：R5.6.19 各号より抜粋）

■物価・賃金対応、医療・介護の財源確保

日医・松本会長■

松本吉郎会長は6月7日の会見で、41団体で組織する「国民医療推進協議会」が採択した決議内容を紹介した。急激な物価・賃金上昇を踏まえ、政府が今月まとめる「骨太の方針」で、2024年度トリプル改定で物価高騰と賃上げに対応することを明記し、必要財源を確保するよう求めている。

松本会長は、決議採択の前に、日医が三師会や病院団体と合同で発表したさまざまな要望や合同声明の中で、医療機関などが物価・賃金高騰に対応するための財源確保を訴えてきたと強調。「政府は国民の生命と健康を守るため、日医をはじめとする医療・介護界の考え方をしっかりと酌んでいただくことを求めたい」と述べた。 ※2

■改定に伴う社会保障費、経済・物価動向も

踏まえる

骨太を正式決定■

政府は16日、「経済財政運営と改革の基本方針2023」（骨太の方針2023）を閣議決定した。2024年度トリプル改定に向けた記載は、自民党の厚生労働族議員らの働きかけで、原案段階から修正。改定に伴う社会保障費について、高齢化の伸びに収める方針だけでなく、「経済・物価動向」も踏まえて検討する方針を明記した。

トリプル改定については「物価高騰・賃金上昇、経営の状況、支え手が減少する中での人材確保の必要性、患者・利用者負担・保険料負担への影響を踏まえ、患者・利用者が必要なサービスを受けられるよう、必要な対応を行う」とした。

原案では「患者・利用者負担・保険料負担の抑制の必要性」としていたが、「抑制の必要性」という表現が消え、「影響」に修正された。「患者・利用者が必要なサービスを受けられるよう」との文言も、追加で入った。

さらに、改定に当たって「第5章2における『令和6年度予算編成に向けた考え方』を踏まえつつ」検討すると追記。第5章2で言及している「骨太2021」を念頭に置き、注釈を追加した。注釈では、「骨太2021においては、社会保障関係費について、基盤強化期間における方針、経済・物価動向等を踏まえ、その方針を継続することとされている」と説明した。

「基盤強化期間における方針」は、社会保障費の実質的な増加を、高齢化の伸びに収める方針を指す。注釈では、「経済・物価動向等を踏まえる」方針を強調したとも受け取れる。 ※3

■秋冬のコロナワクチン、1価ワクチンで

厚労省分科会■

厚生労働省の厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会（会長＝脇田隆宇・国立感染症研究所長）は6月16日、今年の秋冬の新型コロナワクチン接種では、現在の流行の主流であるXBB.1系統の1価ワクチンを用いる方針を了承した。

一方、厚労省が提起した接種対象者の特性に応じたワクチンの使い分けについては、現段階でエビデンスが構築されていないとして、「判断は難しい」と結論付けた。

秋冬（9～12月）の接種は、接種可能な全ての人を対象とし、使用するワクチンについて早期に結論を得る方針になっていた。 ※4

* 次回のFAXニュース送信は、R5年7月1日の予定です。